

イーストアイ・セーフティーアーム®シリーズ セーフティーアーム ロレータSS

品番：RSAS-G（グリーン）

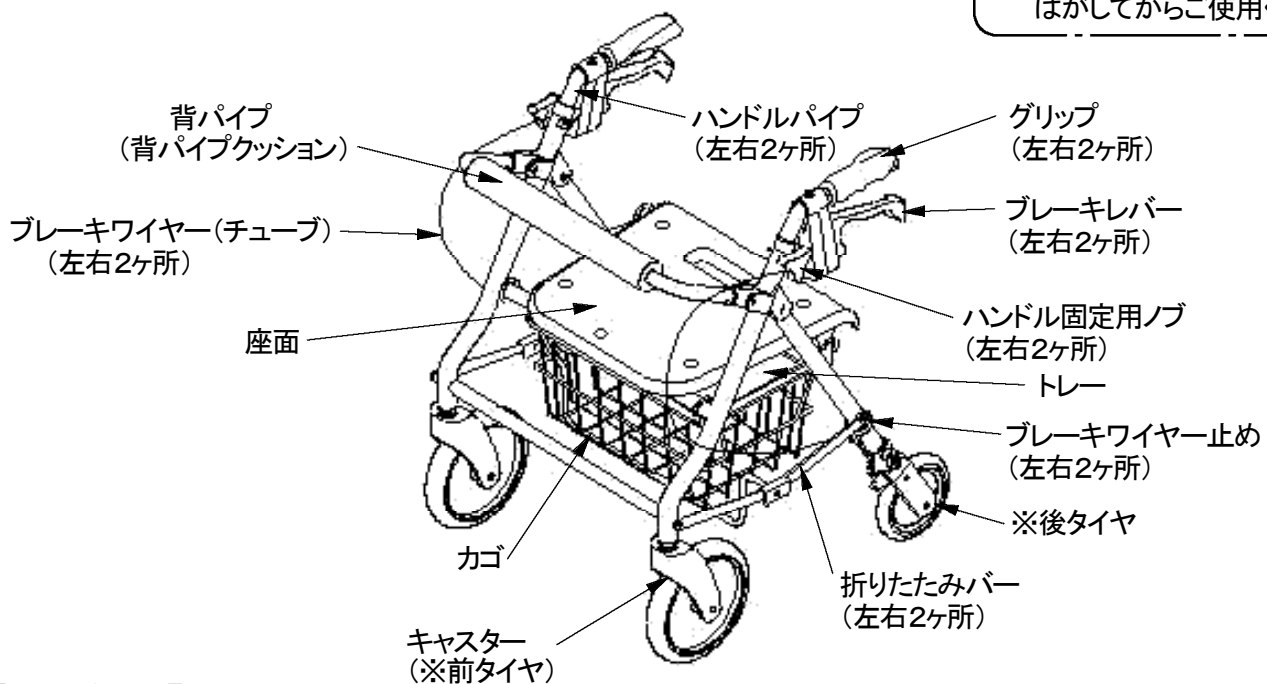
品番：RSAS-R（レッド）

取扱説明書

この度は「イーストアイ・セーフティーアーム ロレータSS」をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用前に必ず、この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくご使用ください。また、この「取扱説明書」は、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

【各部の名称】

※前後タイヤのラップをはがしてからご使用ください。



【基本仕様】

品名：セーフティーアーム ロレータSS ①グリーン ②レッド

品番	使用時サイズ	重量	タイヤサイズ	材質
①RSAS-G	幅48×奥行57×高さ65～76cm (6段階調節)	6.7kg	前タイヤ：7インチ (約18cm) 後タイヤ：5インチ (約12.5cm)	本体：アルミ(一部スチール) グリップ：合成ゴム トレー：ポリプロピレン 座面・その他：合成樹脂
②RSAS-R				

最大使用者体重：100kg（カゴ、トレーの積載物重量を含む）

目次

- ・各部の名称……………1P
- ・基本仕様……………1P
- ・警告表示の説明……………2P
- ・ご使用前に……………2P
- ・福祉用具レンタル業者の皆様へのお願い……………3P
- ・使用上の警告と注意…3～8P
- ・ご使用前の準備……………9～10P
- ・折りたたみ収納方法……………11P
- ・ブレーキの操作・調整方法……………12P
- ・ご使用方法……………12P
- ・ブレーキの点検方法……………13P
- ・お手入れの方法……………14P
- ・お手入れの際のチェックポイント…14～15P
- ・安全に製品をご使用いただくために…16P

【警告表示の説明】

警告表示：⚠️ 警告 この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用する方が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	警告表示：⚠️ 注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用する方が、傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
図記号：🚫 禁止 使用の際に「してはいけない内容(禁止)」を示しています。	図記号：🛑 必ずおこなう 使用の際に「必ずお守りいただく内容(実行)」を示しています。

【ご使用前に】 ⚠️ **警告**

●は使用に際しての、具体的な警告・注意・確認事項を表記しています。
○は●の事項を守らずに使用した場合に起こりうる結果を表記しています。

- この「セーフティーアーム ロレータ SS」は、屋内・屋外での歩行を補助するための製品(歩行車)です。ご使用前に専門家(医師、理学療法士、介護福祉士、ケアマネージャーなど)にご相談ください。また、長期間ご使用される間に使用される方の症状が変わる場合があります。定期的に専門家にご相談ください。
- 用具選定の際の適合が十分でなかったり、無理な使用をすることにより、症状の悪化や転倒事故などが起きる原因になります。
- 自立歩行に不安のある方は、介助の方が付き添ってご使用ください。
- ブレーキの操作ができない方、グリップがしっかり握れない方、両手で身体の体重を支えることができない方は使用できません。また、つかまり立ち、伝い歩きができない方は使用できません。
- 使用される方の体力や状態、使用場所に応じて、介助の方が付き添いご使用ください。
- 使用される方の体力や状態、使用場所に応じて、カゴにのせる荷物の量を減らすなど調整してください。坂道や傾斜面でも不自由なく取り回しができる荷物の量をご確認の上、ご使用ください。
- 特に荷物が多くのった状態では、歩行車本体が傾斜している下方へ動いてしまいます。傾斜面で歩行車の制御ができるように使用者の体力に合わせて荷物の積載量を調整してください。
- この製品は車いすと異なります。座面に座った状態で人を運ぶために使用しないでください。
- 公道で使用する場合は、歩行車の操作に十分慣れてからご使用ください。歩行車は歩行者として取扱われます。道路通行時は必ず右側を通行してください。また車道は歩行せずに、できる限り歩道や幅のある路側帯を通行してください。
- 公共交通機関(バス、電車)や、店舗などでの使用については、各交通機関や店舗などの指示にしたがってください。また、車内では、歩行車を使用して歩行しないでください。
- 製品は使用とともに劣化が進みます。取扱説明書をご参照の上、ご使用前に各部を点検し、メンテナンスしていただきますようお願い申し上げます。この製品の保証期間はご購入日より**1年間**です。なお保証期間を超過し、長年ご愛用いただいております製品につきましては、特に注意して定期点検をしていただき、異常が見られる場合は、即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問合せ先：16頁』または発売元までお問合せください。
- グリップ、タイヤ、座面、ブレーキワイヤーなどは交換修理ができます。傷や摩耗、変形などが見られる場合は交換修理をおすすめします。交換修理につきましては、『アフターサービスのお問合せ先：16頁』または発売元までお問合せください。

【福祉用具レンタル業者の皆様へのお願い】

- * 歩行車をレンタルされる場合は、実際にご使用になるお客様に事前に歩行車の使用条件、使用方法、取扱い上の警告・注意事項など、この取扱説明書の内容について十分説明していただくようお願いいたします。
また、実際に使用される場所をご確認いただき、周辺に障害物などの危険(例:家具、溝、段差など)がある場合、ご利用者様に対して、「使用環境の整備」と「事故防止の対策」などのご提案をお願いいたします。
- * 定期的にご利用者様宅を訪問の際に、歩行車の状態を『お手入れの際のチェックポイント:14~15頁』に基づきご確認いただき、メンテナンスをおこなってください。製品は外部から見て損傷がないように見えても、ご使用とともに金属疲労、紫外線などによる樹脂の劣化・退色、ゴムの摩耗や硬化などの経年劣化が進み、強度不足など総合的に製品の安全性に問題となる場合があります。点検後に異常が見られる場合は、即時に使用を中止して製品の回収をしていただき、『製品についてのお問合せ先:16頁』までお問合わせください。
メンテナンス不良のまま製品の使用を続けると製品の破損や転倒など思わぬ事故の原因になります。
定期的メンテナンスをお願いいたします。
- * 弊社ホームページから介護保険貸与対象福祉用具の「取扱説明書」の最新版をダウンロードすることができます。
(ホームページURL <http://www.easti.co.jp>)

【使用上の警告と注意】



警告

* 安全のために必ずお守りください

- は使用に際しての、具体的な警告・注意・確認事項を表記しています。
- は●の事項を守らずに使用した場合に起こりうる結果を表記しています。

ブレーキの 作動確認と調整

❗必ずおこなう

- 必ず使用前に歩行ブレーキが正常に作動すること、また、駐車ブレーキをかけた時に、後タイヤがしっかり固定され、手でタイヤが容易に回転しないことをご確認ください。
*ブレーキの点検につきましては、『ブレーキの点検方法:13頁』をご参照ください。
- 後タイヤがすり減るとブレーキの効きが甘くなってきます。ブレーキを調整してもタイヤの固定ができない場合は、『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合わせください。

ハンドルは左右 同じ穴位置にセット

❗必ずおこなう

- 左右のハンドルパイプは同じ穴位置(高さ)にセットしてご使用ください。
- 歩行車がまっすぐ進まず不安定になり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

ハンドル固定用 ノブの締め付けを 確認

❗必ずおこなう

- ハンドル固定用ノブは使用とともにゆるみが出る場合があります。ご使用前にノブのゆるみをご確認ください。ゆるんでいる場合は締め直してからご使用ください。
『ご使用前の準備:10頁』をご参照ください。
- ノブがゆるんだまま使用すると、ハンドルがぐらついて不安定になり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。また、ブレーキワイヤーがはさまるとノブの締め付けができません。ブレーキワイヤーをさけてノブを締め付けてください。

背パイプの 取付確認

❗必ずおこなう

- ご使用前にプッシュボタンがはめ込まれ、背パイプがしっかり取付けられていることをご確認ください。
- 座面に座る際に背パイプがはずれて、後方に転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

ネジがゆるんだまま 使用しない

❗必ずおこなう

- タイヤ取付けボルトや各部の取付ネジは、ご使用とともにゆるみが出る場合があります。ご使用前にネジやボルトのゆるみをご確認ください。
ゆるんでいる場合は締め直してからご使用ください。
- ネジやボルトがゆるんだまま使用するとタイヤや本体フレームがはずれたり、脱落して歩行車が固定されずに不安定になり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。
- *ネジやボルトを締め付けすぎると、動きが悪くなる場合があります。ネジやボルトを締め直した際に動きが悪くなった場合には、少しだけゆるめるなどして動きを確認してください。

グリップを握って 使用

❗必ずおこなう

- 歩行時には、左右のグリップをしっかり握ってご使用ください。
- 片手で使用したり、グリップ以外を握って使用すると、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

偏った力をかけない

❗必ずおこなう

- 左右のグリップに偏った力をかけて使用しないでください。必ず両手で左右のグリップを握り、左右均等に体重がかかるようにしてください。
- 偏った力をかけて使用すると、まっすぐに走行できずに歩行車が不安定になり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

左右のブレーキを均等な力で使用(急ブレーキ禁止)

❶ 必ずおこなう

●左右のブレーキを均等にかけて使用してください。急ブレーキはかけないでください。

○片方のブレーキだけしか使用できない場合、歩行車の走行が不安定になり転倒など思わぬ事故の原因になります。ご使用になる方の状態により介助の方が付き添いご使用ください。

公道での使用に注意

❶ 必ずおこなう

●公道で使用する場合は、歩行車の操作に十分慣れてからご使用ください。

状況に応じて介助の方が付き添いご使用ください。

歩行車は歩行者として取扱われます。道路通行時は必ず右側を通行してください。

また車道は歩行せずに、できる限り歩道や幅のある路側帯を通行してください。

○車や自転車などへの接触など思わぬ事故の原因になります。

坂道、傾斜面での使用に注意

⊙ 禁止

●坂道や片側が傾斜している路面での使用には十分ご注意ください。

○走行が不安定になったり、速度が増して転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

特に荷物が多くのった状態では、歩行車本体が傾斜している下方へ動いてしまいます。

傾斜面で歩行車の制御ができるように使用者の体力に合わせて荷物の積載量を調整してください。

溝や段差に注意

⊙ 禁止

●踏切の線路の溝や道路の側溝などの溝にご注意ください。溝に対して左右前タイヤの向きを直角方向にそろえてから歩行してください。また、大きな溝は避けてください。

○溝にタイヤがはまって動けなくなり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

●段差にキャストを強くぶつけるなどして無理に段差をのり越えないでください。

○繰り返しキャストに衝撃が加わると、樹脂部が劣化して破損するなど思わぬ事故の原因になります。

●縁石など小さな段差をのり越える際にも十分ご注意ください。

○歩行車がバランスを崩して転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

視界や路面状況が悪い場合は使用しない

⊙ 禁止

●夜間などに使用する場合は、介助の方が付き添うなど、十分注意してご使用ください。

また、視界や路面状況が悪い場合は、屋外で使用しないでください。

○転倒や他の通行物への衝突など思わぬ事故の原因になります。

階段・エスカレーターで使用しない

⊙ 禁止

●階段やエスカレーターで使用しないでください。

○転倒や転落など思わぬ事故の原因になります。

駐車ブレーキをかけたまま移動しない

⊙ 禁止

●駐車ブレーキをかけたまま、歩行車を移動しないでください。

○後タイヤが摩耗したり、ブレーキ部品が破損するなど思わぬ事故の原因になります。

走って使用しない

⊙ 禁止

●歩行車を使用して走らないでください。

速度をブレーキで調整しながらゆっくり歩行してください。

○歩行車の速度が増して、転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

歩行車を前に進め過ぎない

⊙ 禁止

●使用する際、一度に歩行車を前に進め過ぎないでください。

○身体を前に移動させることが困難になり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因となります。

身体の後ろに置いて使用しない

⊙ 禁止

●歩行車を身体の後ろに置いて歩行しないでください。

○転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

折りたたんだ状態で使用しない

⊙ 禁止

●折りたたんだ状態で使用しないでください。座面をしっかり下げ、受け部をパイプにしっかりとめてからご使用ください。

○不安定な状態で使用すると、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

滑りやすい場所
などで使用しない
⊙ 禁止

- 濡れた床、タイル面、ぬかるみや砂利道など滑りやすい場所で使用しないでください。
- 転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

浴室内で使用しない
⊙ 禁止

- 浴室内で使用しないでください。
- 転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。また、浴室内の水分により金属部分のサビや、樹脂部の劣化を早める原因になります。

駐車の際は
駐車ブレーキを使用
❶ 必ずおこなう

- 歩行車から離れる際は、必ず左右の駐車ブレーキをかけ、歩行車を固定してください。
- 歩行車が突然動きだし、通行者にぶつかるなど思わぬ事故の原因になります。

座面に座る前の
確認
❶ 必ずおこなう

- 座面に座る前に、背パイプが使用時位置に下げられていることをご確認ください。
- 背パイプが背中に当たり、座面に深く座ることができず、すべり落ちるなど思わぬ事故の原因になります。
- 座面に座る前に左右の駐車ブレーキをかけ、歩行車が動かないことを確認してください。
- 歩行車が急に動き出し転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

勢いをつけて
座らない
❶ 必ずおこなう

- 勢いをつけて座ったり、座面や背パイプに瞬間的に大きな力がかかるような座り方はせず、座る時はゆっくりと腰かけてください。
- 上記のような使い方を繰り返すと、座面や各パイプが破損して、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

移乗する際の注意
❶ 必ずおこなう

- 本製品への移乗、または本製品から移乗する際は十分ご注意ください。
- 移乗する際は、ご使用される方の身体のバランスが崩れやすく転倒の危険性があります。歩行車の駐車ブレーキを必ずかけてください。また、必要に応じて介助の方が付き添ってご使用ください。

背パイプに
つかまらない
⊙ 禁止

- 背パイプに大きな力をかけて立ち上がる際などに、つかまったり、座った時にのけぞるように背パイプによりかからないでください。
- 製品が破損したり、歩行車が急に動き出し、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

坂道で座面に
座らない
⊙ 禁止

- 斜面や坂道では座面に座らないでください。また、坂道に駐車しないでください。
- 歩行車が急に動き出し、転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

座ったまま移動しない
⊙ 禁止

- 歩行車に座った状態で移動しないでください。
- 転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

人を運ばない
⊙ 禁止

- 車いすのように人を座面にのせて、移動させないでください。
- 座面から転落するなど思わぬ事故の原因になります。

座面の上に立ち
上がらない
⊙ 禁止

- 歩行車の座面の上に立ち上がらないでください。
- 座面から転落するなど思わぬ事故の原因になります。

カゴ以外に荷物を
のせない
⊙ 禁止

- 座面に荷物をのせたり、ハンドルに荷物をぶら下げるなど、カゴ以外に荷物をのせないでください。
- 荷物が落下して破損したり、落下した荷物でケガをするなど思わぬ事故の原因になります。また、走行が不安定になり思わぬ事故の原因になります。

カゴにものを
のせすぎない

⊙ 禁止

- カゴを取付けて使用する場合、荷物の積み過ぎにご注意ください。
- *カゴの最大積載重量は、トレーとトレーにのせているものを含め5kgです。
- カゴが破損したり、歩行車が不安定になり、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。
- カゴに荷物をのせる際は、偏った積み方をしないでください。
- 歩行車自体が転倒するなど、荷物や歩行車、カゴの破損や変形の原因になります。

トレーの上にものを
のせすぎない

⊙ 禁止

- トレーの上にものをのせすぎないでください。(積載荷重1.0kg以下でご使用ください。)
- トレーやカゴが破損したり、歩行車のバランスがくずれるなど思わぬ事故の原因になります。
- (※カゴはトレーを含め、積載重量5kg以下でご使用ください)

トレーを他の製品に
取付けて使用しない
トレーに飲み物や
小物類をのせたまま
歩行しない

⊙ 禁止

- 付属のトレーは、「セーフティアーム・ロータSS」専用品です。
- 他の製品に取付けて使用しないでください。また、トレーのみで使用しないでください。
- トレーに飲み物や小物類(鍵、たばこなど)をのせたまま、歩行車で歩行しないでください。
- 振動で、トレーからものが落ちて紛失する恐れがあります。また、飲み物がこぼれて床面を濡らしたり、容器(陶器・ガラスなど)がトレーから落ちて割れるなど思わぬ事故の原因になります。

パイプを曲げ
戻さない
(修理の禁止)

⊙ 禁止

- 歩行中に脚先が溝や穴にはまり、転倒するなどして大きな力がかかった場合に、パイプが曲がる場合があります。このときにパイプを元の状態に曲げ戻さないでください。
- アルミパイプの性質上、一度曲がったパイプを曲げ戻して使用すると、徐々にパイプに亀裂が入り使用中に突然折れて、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。
- *パイプに変形、異常が現れた場合には、即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問合せ先: 16頁』または発売元までお問合せください。

改造をしない

⊙ 禁止

- 本体に穴を開けたり、他の部品を取付けたり、他の部品に取替えるなどの改造は絶対にしないでください。
- 改造された製品は強度や安定性などの保証はできません。
- また、改造された製品に不具合が起きても弊社での修理対応はできません。

⚠ 注意

*安全のために必ずお守りください

- は使用に際しての、具体的な警告・注意・確認事項を表記しています。
- は●の事項を守らずに使用した場合に起こりうる結果を表記しています。

用途について

⚠ 注意

- この歩行車は、屋内・屋外での歩行を補助するための歩行補助用具です。
- ブレーキの操作ができない方、グリップがしっかり握れない方、両手で身体の体重を支えることができない方は使用できません。
- また、つかまり立ち、伝い歩きができない方は使用できません。
- 用途以外を使用をすると、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

介助の方が
付き添い使用

⚠ 注意

- 使用される方の体力や状態により、介助の方が付き添ってご使用ください。

幼児や子供に
注意

⚠ 注意

- 幼児や子供は思わぬ行動をする場合がありますのでこの歩行車に近づけないよう十分にご注意ください。
- この歩行車は折りたたみができる構造ですので、幼児や子供がいたずらをしたりすると、指などはさんだりしてケガをするなど思わぬ事故の原因となります。
- また、この歩行車で遊んだりすると、転倒してケガをするなど思わぬ事故の原因となります。

交通量の少ない
場所で使用

⚠ 注意

- 交通量の多い場所では使用を避けるか、介助の方が付き添ってご使用ください。
- 通行者と接触し転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。

**屋内での使用に
注意**

△ 注意

- 屋内で使用する際は、敷物(じゅうたん等)にご注意ください。
- 敷物にタイヤや足をとられて転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

キズつきに注意

△ 注意

- 特に一般家庭などの屋内の限られたスペースで歩行車を使用する場合、歩行車が壁や家具などに当たったり、ぶつかったり、こすれたりする場合がありますのでご注意ください。
- 歩行車本体が破損したり、壁・家具などがキズついたりする原因になります。
- ご使用の際に歩行車が壁や家具にぶつかってしまう場合は、介助の方が付き添って歩行車をご使用されるか、市販のゴムシートなどで壁や家具を保護してご使用ください。

**ドリンクホルダーに
置いた容器に注意**

△ 注意

- トレーのドリンクホルダーに背の高い容器(例:500mlペットボトル)を置いた場合は、容器の横倒れに注意してください。なるべく背の低いフタ付きの容器をご使用ください。
- また、ペットボトルは必ずフタを締めて置いてください。
- 人がぶつかるなどして歩行車が動いた場合に容器が倒れることがあります。

**ブレーキワイヤーに
注意**

△ 注意

- ご使用の際に、ブレーキワイヤーが周囲の物に引っかからないようにご注意ください。
- また、高さ調節時などにブレーキワイヤーを無理に引っ張らないようにご注意ください。
- ご使用前に必ずブレーキワイヤーに異常がないことを毎回点検ご確認ください。
- * **ブレーキの点検につきましては、『ブレーキの点検方法:13頁』をご参照ください。**
- ブレーキワイヤーが傷ついたり、変形してブレーキの効きが悪くなり、転倒など思わぬ事故の原因になります。

**指をはさまないよう
注意**

△ 注意

- ハンドルパイプ取付時や歩行車の折りたたみ時に指をはさまないようご注意ください。
- 座面の穴、折りたたみバーなどへの指や手のはさみ込み、巻き込まれにご注意ください。

ガタつきに注意

△ 注意

- 本体のガタつきにご注意ください。
- 本体に無理な力がかかることで、ガタつきが出る場合があります。
- ガタつきがある場合は、即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合せください。

**階段での持ち
運び等に注意**

△ 注意

- 階段等で本体を折りたたみ、持ち運びをする際には十分ご注意ください。
- ご使用される方が、歩行車を持ち運びするのに十分な力がない場合には、必ず介助の方が持ち運びをおこなってください。
- ご使用される方が転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

**折りたたみ
状態での注意**

△ 注意

- この歩行車は折りたたんだ状態で自立しますが、折りたたんで置く場合は、歩行車本体が転倒しないようにご注意ください。
- 歩行車本体の転倒により、そばにいる方がケガをされたり、本製品や、周囲の物の破損など思わぬ事故の原因になります。

保管時の注意

△ 注意

- 使用しない時は折りたたみ、収納保管してください。また、幼児や子供の手の届くところには放置しないでください。
- 通行する人が歩行車に引っかかって転倒したり、誤って踏まれると変形、破損する原因になります。
- また、放置された歩行車で幼児や子供が遊んだりすると、指や頭などをはさんでしまったり、転倒してケガをするなど思わぬ事故の原因となります。

直射日光に注意

△ 注意

- 保管時は、直射日光の当たらない屋内に収納保管してください。
- 屋外に放置するとサビや紫外線による金属、樹脂、ゴムの劣化が進行しやすくなる原因になります。

保安上の注意

⚠ 注意

- 非常口や消火器、消火栓の前には放置しないでください。
- 緊急時の避難や救助の妨げになります。

グリップの確認

❗ 必ずおこなう

- グリップを握った時に、破れがないこと、簡単に回転しないことをご確認ください。
- 確認の際にグリップの摩耗や変形・変質(硬化、べたつき、変色、亀裂)などが見られる場合は、『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合せください。

座面の確認

❗ 必ずおこなう

- ご使用前に必ず、座面の表裏面に亀裂、変形などの異常がないことをご確認ください。
- 座面が破損して、転倒によるケガなど思わぬ事故の原因になります。
座面に異常がみられる場合は、使用せずに『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合せください。

タイヤのすり減りを確認

❗ 必ずおこなう

- タイヤ(前・後)にすり減りがないことをご確認ください。
- ブレーキの効きが悪くなったり、本体がガタつくなど安定した走行ができなくなる原因になります。
タイヤは消耗品です。確認の際にすり減りがひどい場合には、即時に使用を中止して『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合せください。

トレーの確認

❗ 必ずおこなう

- トレーを使用する場合は、トレーをカゴにのせ、しっかり取付けられていることをご確認ください。
- 使用中にトレーがはずれるなど思わぬ事故の原因になります。

火のそばに置かない

⊘ 禁止

- 歩行車を火(暖炉、ストーブ、ファンヒーターなど)のそばに置かないでください。
- パイプに触れてやけどをしたり、グリップや樹脂部分などが溶けて使用できなくなる恐れがあります。

濡れたまま放置しない

⊘ 禁止

- 屋外で使用し、突然の雨や水はねなどにより濡れてしまった場合は、ご使用後に乾いた布で水気を拭き取り、乾燥させてください。
また、屋内での使用でも、飲み物がこぼれたり、消毒液がかかるなどして濡れてしまう場合があります。濡れてしまった場合はすぐに拭き取り、乾燥させてください。
- 濡れたまま放置すると、金属部分がサビたり、座面など樹脂部品の劣化(退色、亀裂)が進行しやすくなる原因になります。薬品などがかった場合、薬液の影響などで金属部分や樹脂部の劣化が早期に進行する可能性があります。定期的に点検していただき、異常が見られる場合は使用を中止して『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合せください。

乱暴な取扱いはしない

⊘ 禁止

- 「歩行車を倒す」などの乱暴な取扱いはしないでください。また、「高いところから落とす」「壁や段差にぶつける」「勢いをつけて座る」など、繰り返し強い衝撃が加わるような使い方はしないでください。
- パイプが変形して歩行車がガタつき、転倒するなど思わぬ事故の原因になります。
また、繰り返し強い衝撃が加えられると座面などの樹脂部分に破損を生じる恐れがあります。

異常が現れた時には(修理の禁止)

⊘ 禁止

- 『お手入れの際のチェックポイント:14~15頁』をご参照の上、ご使用前に各部を点検してください。
万一、製品に破損、変形などの異常が現れた場合は、即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までお問合せください。
お客様ご自身での修理は絶対にしないでください。
* お客様ご自身で修理をおこなった場合、弊社での修理対応ができなくなる場合があります。

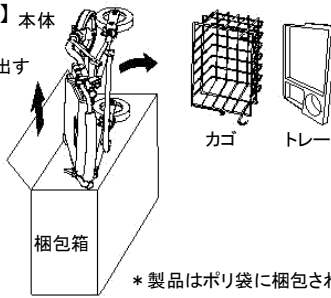
【ご使用前の準備】

『 1. 梱包箱から取出します。』

① 本体、カゴ、トレーが梱包されていることをご確認ください。

【図1】 本体

引き出す



* 製品はポリ袋に梱包されています。

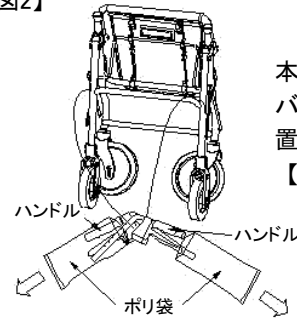
トレーを取出してから、本体をカゴと一緒に引き出してください。

【図1 参照】

●無理に引き出すとキズや破損の原因になります。

② ハンドルパイプが座面の下に、バンドで固定されています。

【図2】

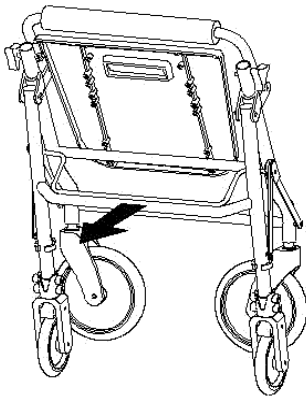


本体やパイプを傷つけないようにバンドをはずし、床面にハンドルを置き、ポリ袋をはずしてください。

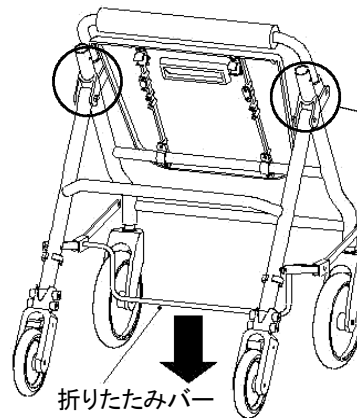
【図2 参照】

●収納されている状態では自立しません。作業時に本体が倒れないようにご注意ください。

『 2. 本体フレームを開き、座面、背パイプを倒します。』 * 下図イラストではハンドル部分は省略してあります。



① 後脚フレームを手前に引き、本体フレームを開きます。



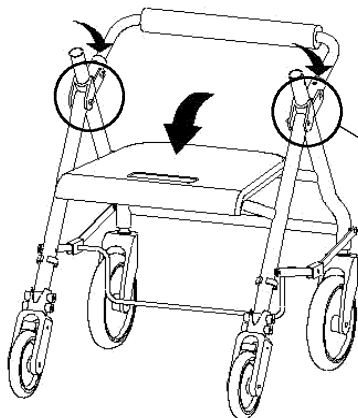
指はさみ注意シール

「後脚パイプ接続部拡大図」

② 折りたたみバーを下に押し下げ、しっかりと本体フレームを開きます。

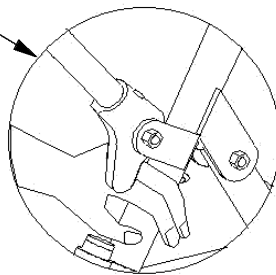
指はさみ注意

●開閉操作時の指のはさみ込みにご注意ください。



③ 座面を手前に倒します。

座面裏側の受けがパイプにはまるまでしっかりと下げてください。
背パイプを倒し、使用時位置にセットしてください。



注意

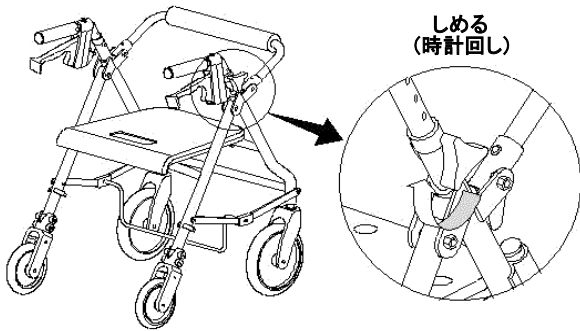
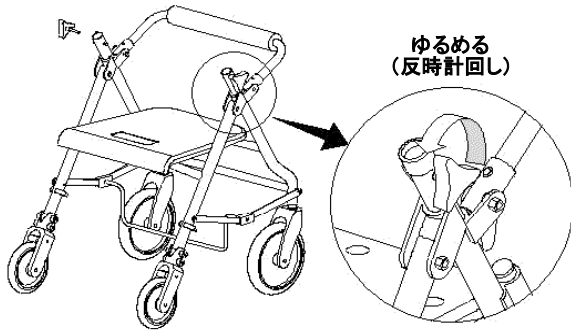
指はさみ注意

- 開閉操作時の指のはさみ込みにご注意ください。
- 座面、背パイプを折りたたんだ状態で使用しないでください。
- 座面を手前に倒して、座面受けがパイプにしっかりとめ込まれたことを確認してからご使用ください。

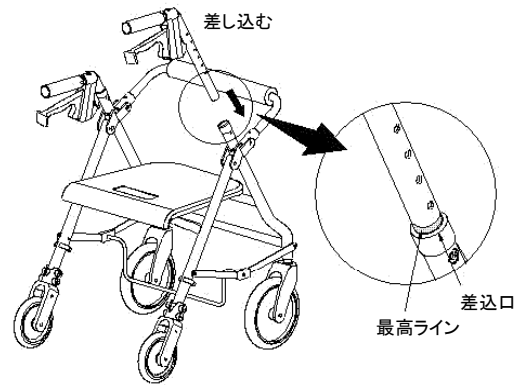
『 3. ハンドルの取付 』

⚠ 注意 **⚠ 指はさみ注意**

①本体左右のハンドル固定用ノブをゆるめ、取外します。



②ハンドルパイプを本体フレームに差し込みます。使用しやすい高さにパイプの穴位置を合わせます。



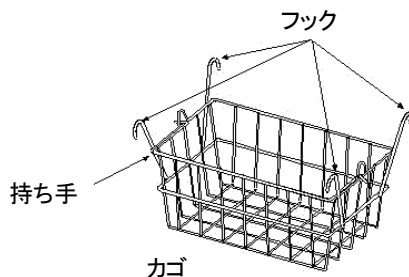
●左右のハンドルの高さは、同じ高さに設定してください。
*パイプにハンドル高さ最高ラインがあります。この位置を本体差込口に合わせるとハンドルはいちばん高くなります。

③固定用ノブを本体外側の取付け穴から差し込み、しっかりと締め付けてください。

●ハンドルががたつく原因になります。 **⚠ 注意**
●ブレーキワイヤーチューブを固定用ノブにはさまないようにご注意ください。

『 4. カゴの取付 』 *カゴは必要に応じて取付け、ご使用ください。

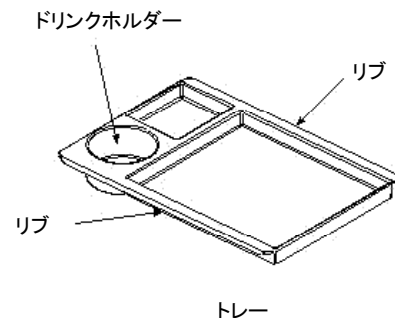
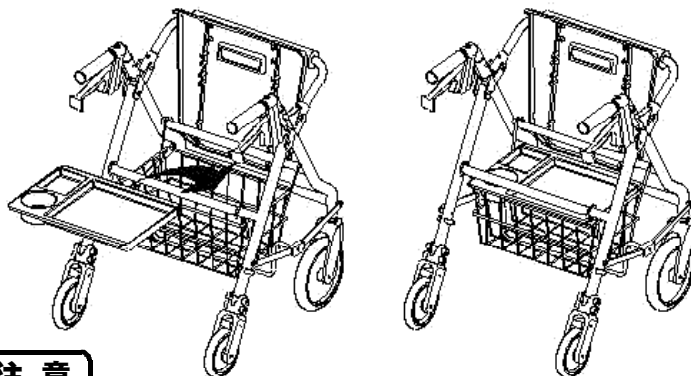
①座面を起こします。
②カゴのフックを本体フレームに引っかけて取付けてください。



⚠ 注意

●カゴへの荷物の積み過ぎにはご注意ください。
また、偏った積み方をせずにバランスよく荷物を入れてください。
*カゴの最大積載重量は、トレーとトレーにのせているものを含め5kgです。

『 5. トレーの取付 』 *トレーは必要に応じて取付け、ご使用ください。 トレーの前後のリブをカゴの上部にはめ込み、トレーをしっかりと取付けてください。



⚠ 注意

●トレーに物をのせて移動する時は、座面を下げてください。
*トレーの上にものをのせすぎないでください(トレー積載荷重1.0kg以下でご使用ください。)

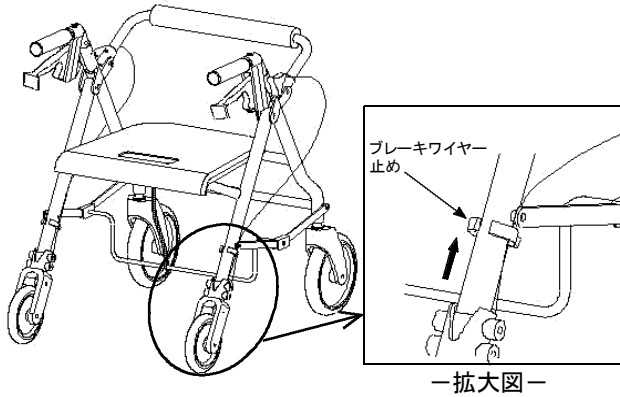
【折りたたみ収納方法】

注意 * 折りたたむ前に、カゴ(トレイ)は取外してください。

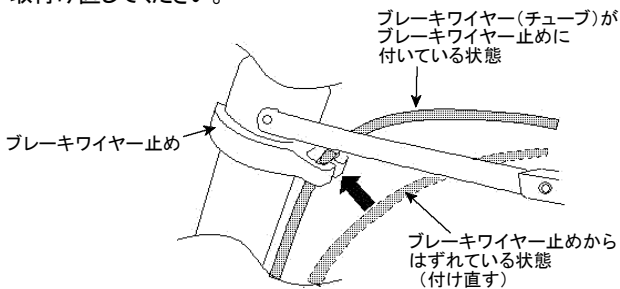
- ご使用される方の状態により、折りたたみ収納操作、持ち運びなどが難しい場合は、必ず介助の方がおこなってください。
- 無理に操作をおこなうとご使用される方が身体のバランスを崩して、転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

1. ブレーキワイヤー止めが正しい位置にあることを確認してください。

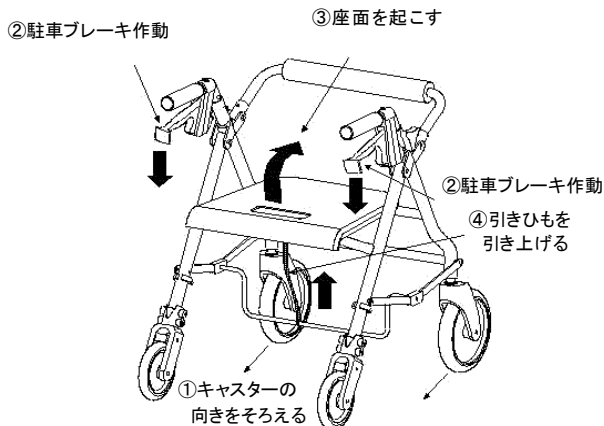
左右のブレーキワイヤー止めが下がっていたり、横に向いている場合は下図の位置に直してください。



ブレーキワイヤーがブレーキワイヤー止めからはずれた場合は、取付け直してください。



2. 駐車ブレーキをかけ、座面を起こします。次に折りたたみバーの引きひもを上引き上げ、本体フレームをたたみます。



注意

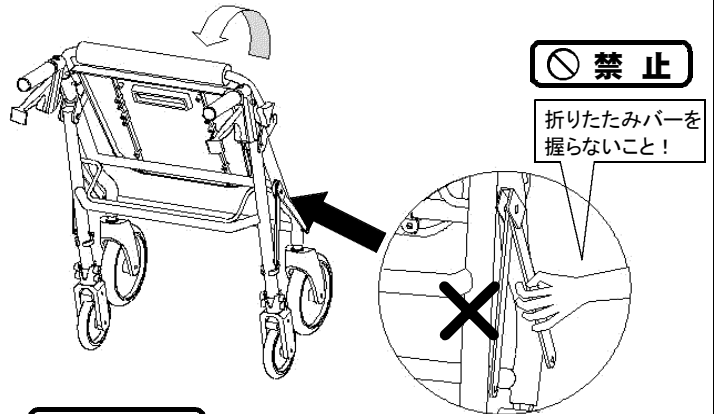
- 一度手前に歩行車を少し引き、キャストの向きをまっすぐにそろえると、本体フレームが折りたたみしやすい状態になります。

3. 背パイプを折りたたみます。

注意

- 長期間使用せず収納する場合は、左右のキャスターを内側に向けて折りたたむと、最も小さい状態になります。
*この状態では自立しません。(9頁-1. 図2の状態参照)

「背パイプを折りたたむ」

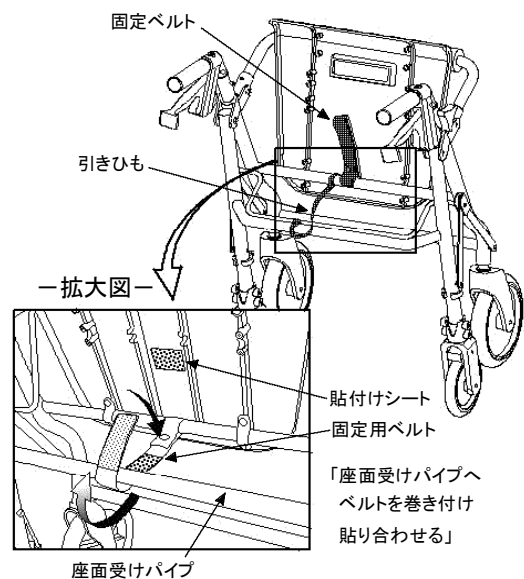


指はさみ注意

- 折りたたみバーを握らないでください。
- 指がはさまり、切断などケガの恐れがあります。

4. 固定用ベルトで固定します。

固定用ベルトは座面裏に折りたたんで貼付けてあります。固定用ベルトの面ファスナーをはがし、長い状態にして、座面受けパイプに巻き付け固定してください。



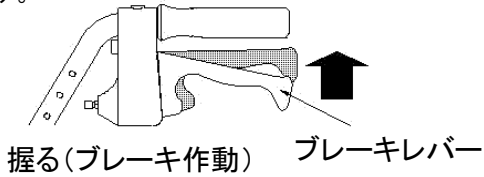
注意

- 固定用ベルトで固定した状態で無理に本体を開かないでください。
- 固定用ベルトや本体が破損するおそれがあります。

【ブレーキの操作・調整方法】

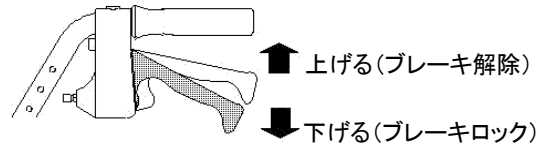
1. 歩行ブレーキの操作方法

ブレーキレバーを握り(自転車のブレーキと同じように)、握る力を調整しながらブレーキをかけ、歩行車の速度を調整します。



2. 駐車ブレーキの操作方法

ブレーキレバーを”カチッ”と音がするまで下に下げるとブレーキレバーが止まり、後タイヤがロックされます。ブレーキレバーを上へ上げるとロックが解除されます。

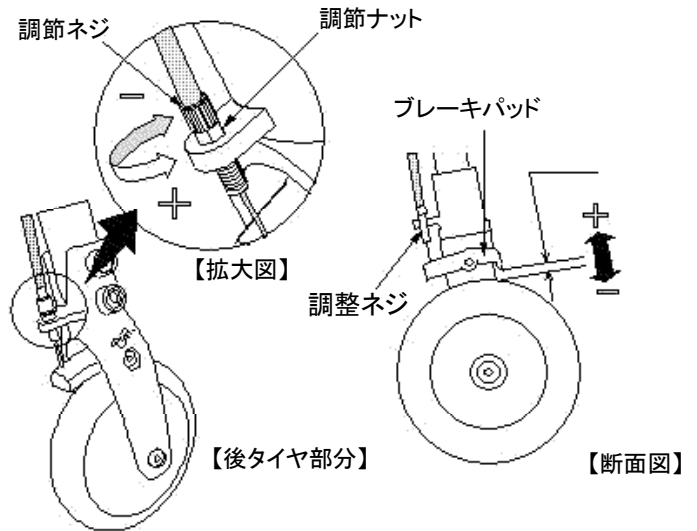


3. ブレーキの調整方法

調整はブレーキを解除した状態で、ハンドル高さをいちばん低い位置にしておこなってください。

調整ネジを抑えながら、ナットを左右に回して、タイヤとブレーキパッドのスキマを調整します。ナットを右に回すとスキマが小さく(-)なり、左に回すと大きく(+)なります。ブレーキを解除した状態でタイヤに引っかかりがないこと、駐車ブレーキをかけ、後タイヤを手で持ち、容易にタイヤが回転しない状態に固定されることをご確認ください。

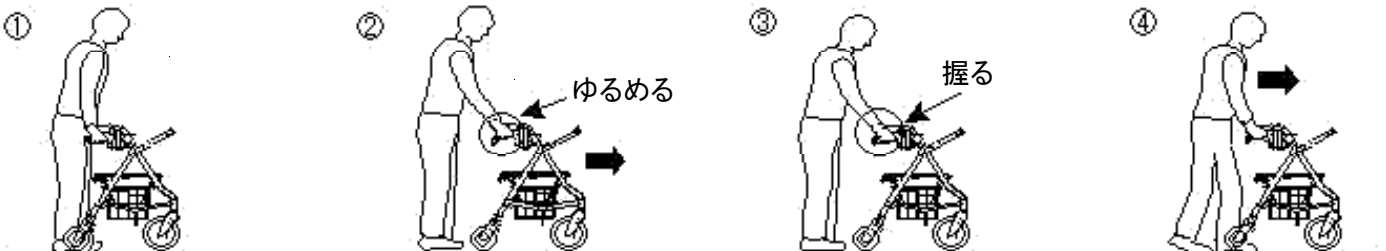
ブレーキの調整をおこなってもタイヤが固定されずブレーキが作動しない場合は、タイヤのすり減りやブレーキパーツの破損などの可能性があります。使用を中止して『アフターサービスのお問合せ先:16頁』または発売元までご連絡ください。



【ご使用方法】

* ご使用の前にタイヤ養生用のラップがはがしてあることを再度ご確認ください。

歩行方法 (下の②~④までの動作を繰り返し、少しずつ歩行してください。)



- ① 両手でグリップとブレーキレバーを握り、歩行ブレーキを作動させます。
- ② 歩行ブレーキをゆるめて、両腕で歩行車を軽く押すように前に動かします。
- ③ 両方のブレーキレバーをしっかり握り、歩行車を確実に停止させます。
- ④ 歩行ブレーキを作動させたまま身体を少しずつ前に移動させます。

【ブレーキの点検方法】 警告

ご使用される方、介助される方、レンタル事業者様へのお願い。

① 必ずおこなう

【ブレーキ点検についての注意】 安全のために、必ずお守りください！

ブレーキに関する下記の①～④までの項目については、**使用前に必ず毎回点検をおこない**ブレーキが正常に作動することをご確認ください。駐車ブレーキを作動させてもタイヤが動いてしまう場合などブレーキに異常が見られる場合は、即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問い合わせ先：16頁』または発売元までお問合せください。

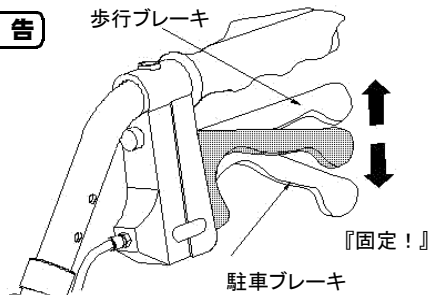
***ブレーキワイヤーは安全のため、必ず1年に一度定期的に点検してください。**

① ブレーキレバー左右2ヶ所

① 必ずおこなう



歩行ブレーキ



駐車ブレーキ

ブレーキレバーを握り、歩行ブレーキを作動させ、タイヤが動かないことをご確認ください。

次に、ブレーキレバーを開いて駐車ブレーキを作動させ、ブレーキレバーが固定されること、ブレーキパッドがしっかり後タイヤを抑え、手でタイヤが回転しないことをご確認ください。左右2カ所とも必ずご確認ください。

(ブレーキの操作方法は12頁を参照)

② 後タイヤ・フォーク・取付けボルト

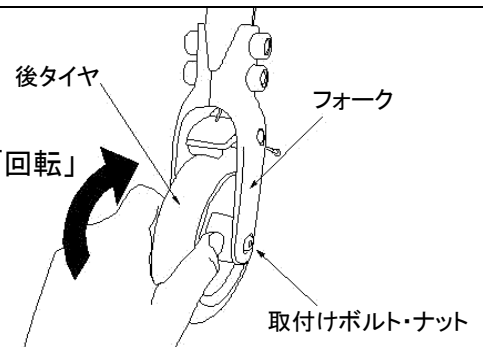
① 必ずおこなう



後タイヤ

フォーク

「回転」



取付けボルト・ナット

ブレーキをかけてもタイヤが回転してしまう場合、タイヤのすり減りの可能性があります。調整方法にしたがい調整をお願いします。

(ブレーキの調整方法は12頁参照)

次に、タイヤが滑らかに回転すること、フォークに変形や破損がないこと、取付けボルトにゆるみがないことを、左右2カ所とも必ずご確認ください。

* 定期的に車軸部には注油してください。

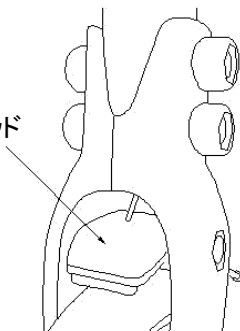
* タイヤに油がついた場合はふき取ってください。

③ ブレーキパッド左右2ヶ所

① 必ずおこなう



ブレーキパッド



②でブレーキを調整しても、正常に作動しない場合、ブレーキパッドが動かなくなっている可能性があります。ブレーキパッド周囲に、ゴミや髪の毛などの異物がからまっていないかご確認ください。

異物などがからまっている場合は取り除き、ブレーキパッド可動軸部に注油してブレーキパッドの動きを確認してください。

* 定期的にブレーキパッド可動軸部に注油してください。

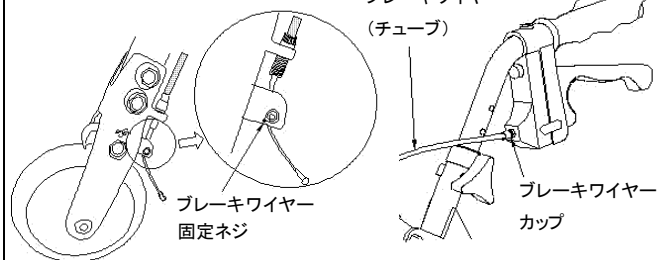
* ブレーキパッドのタイヤ接合面や、タイヤに油がついた場合はふき取ってください。

④ ブレーキワイヤー固定ネジ・ ブレーキワイヤー(チューブ)左右2ヶ所

① 必ずおこなう



ブレーキワイヤー
(チューブ)



ブレーキワイヤー
固定ネジ

ブレーキワイヤー
カップ

②③をおこなってもブレーキが正常に作動しない場合、ブレーキワイヤーが切れていたり、ブレーキワイヤー固定ネジがゆるんでいる可能性があります。ブレーキワイヤー劣化の確認とブレーキワイヤー固定ネジが確実に締め付けられ、ブレーキワイヤーとブレーキパッドがしっかり固定されていることをご確認ください。ブレーキワイヤーなどに異常が見られる場合は、即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問い合わせ先：16頁』または発売元までお問合せください。

ブレーキチューブの両端が、ワイヤーカップにはまっていることをご確認ください。また、チューブに、傷や、やぶれがないことをご確認ください。

【お手入れの方法】

- * 汚れを落とす際は、水または薄めた中性洗剤を含ませた布をよく絞ってふき取ってください。
汚れをふき取った後は、乾いた布で水気をふき取り乾燥させてください。
- * タイヤの動きをスムーズにするため、定期的に車軸部に市販の自転車用機械油などを注油してください。

お手入れの際の注意

- お手入れの際にケガなどには十分ご注意ください。
- シンナーやベンジン、塩素系洗剤などは使用しないでください。
○樹脂部分やグリップゴムが溶け、変形する恐れがあります。
- 金ブラシ・たわしなどは使用しないでください。
○アルミパイプ、その他樹脂部分が傷つきます。
- フレームの一部・ボルト・ナット・カシメなどはスチール製です。
定期的に市販の防錆油などで、サビ止め処置をおこなってください。
- 車軸部に注油する際は、タイヤやブレーキパッドに油が付着しないようご注意ください。
○ブレーキの性能が著しく低下する恐れがあります。
- 本体や、パイプ溶接部にキズや亀裂がないかを定期的にご確認ください。



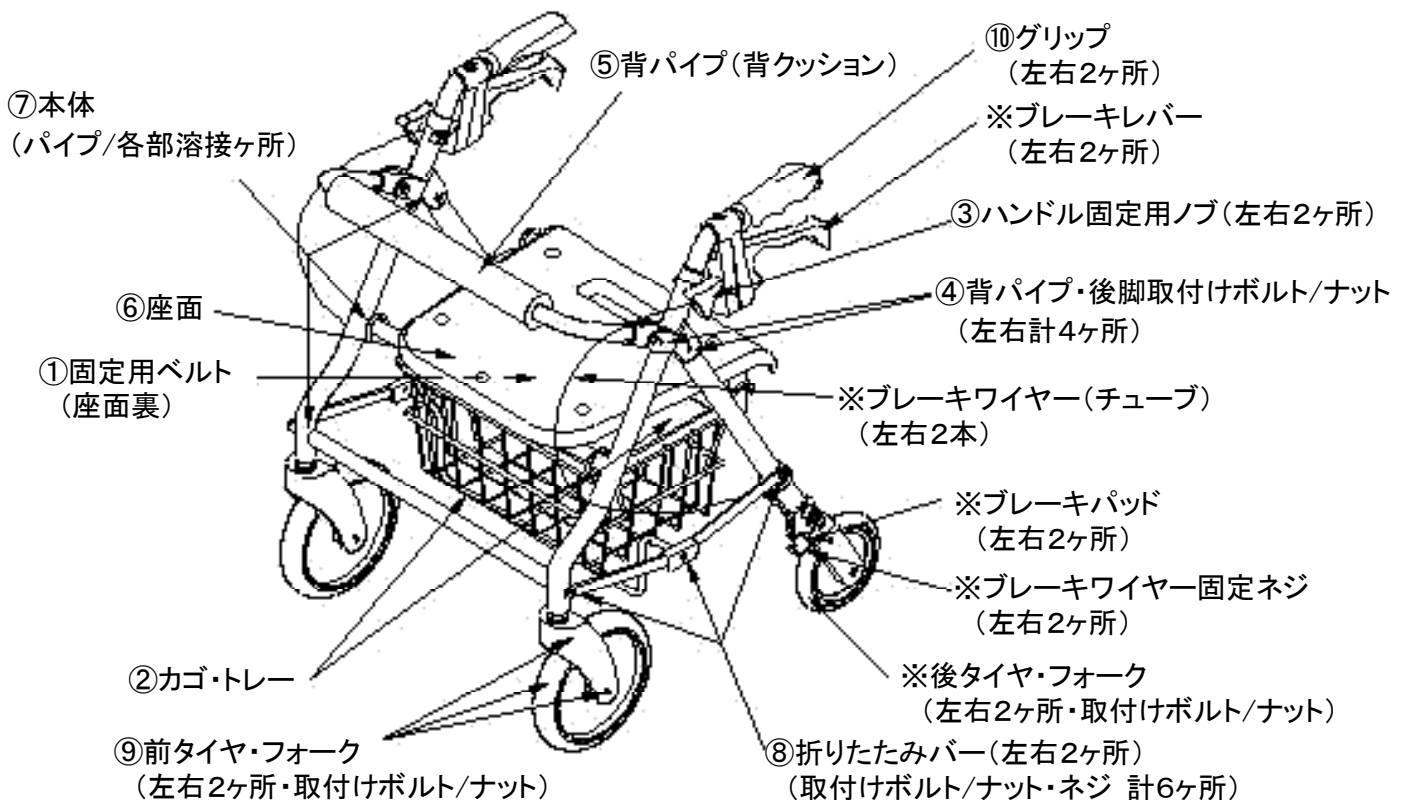
【お手入れの際のチェックポイント】



- 製品は使用とともに劣化が進みます。この取扱説明書をご参照の上、定期的の下図の部分を中心に歩行車の各部を点検してメンテナンスをしていただきますようお願い申し上げます。
- この製品の保証期間は、ご購入日より**1年間**です。
なお保証期間を超過し、長年ご愛用いただいている製品につきましては、特に注意して定期点検をしていただき、点検の結果、製品に異常が見られる場合には、即時に使用を中止して『アフターサービスのお問合せ先: 16頁』または発売元までお問合せください。

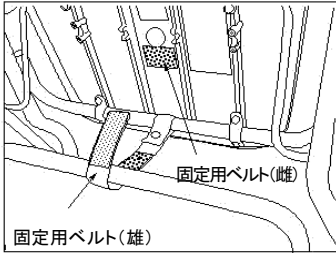
＜消耗部品について＞

グリップ、タイヤ、背クッション、ブレーキ関連部品、座面などは消耗部品です。
定期的に点検していただき、メンテナンスの際に摩耗や劣化、破損などがある場合は交換してください。



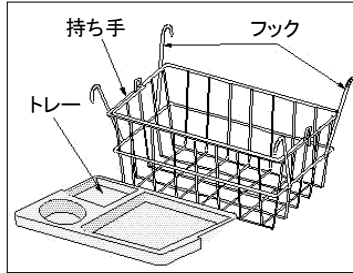
※印部分は『ブレーキの点検方法: 13頁参照』

①固定用ベルト (* 本体を折りたたみ、座面裏側から見た図)



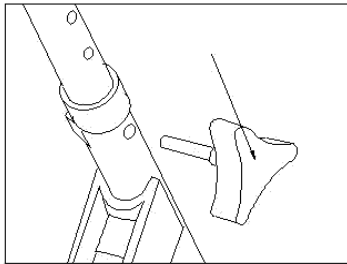
固定用ベルト(雄)にやぶれやほつれがないことをご確認ください。固定用ベルト(雌)が座面裏側にしっかりと貼り付けられていることをご確認ください。

②カゴ・トレー



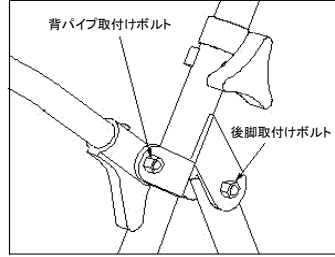
カゴに変形や破損がないこと、また、持ち手がはずれていないことをご確認ください。トレーに割れや破損がないことをご確認ください。

③ハンドル固定用ノブ 左右2ヶ所



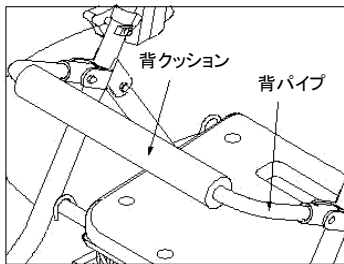
ハンドル固定用ノブがしっかり締め付けられることをご確認ください。
*ブレーキワイヤーチューブをはさまないようにしっかりノブを締め付けてください。

④背パイプ・後脚取付けボルト/ナット 左右2ヶ所



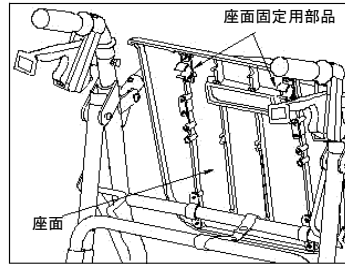
背パイプ・後脚取付けボルト・ナットにゆるみがないことをご確認ください。

⑤背パイプ(背クッション)



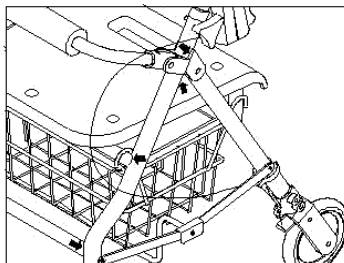
背パイプに変形や亀裂がないこと、プッシュボタンでしっかり固定されていることをご確認ください。背クッションにやぶれがないことをご確認ください。

⑥座面 (* 本体を折りたたみ座面裏側から見た図)



座面に亀裂や変形がないことをご確認ください。裏側も確認いただき、固定用部品等に破損がないことをご確認ください。

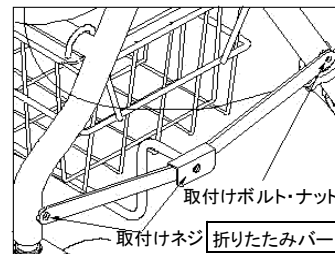
⑦本体(パイプ/各部溶接ヶ所)



パイプに変形や亀裂がないこと、各部溶接ヶ所に亀裂など異常がないことをご確認ください。4輪が平面で接地していない場合、本体パイプが変形している可能性があります。

* 溶接ヶ所(図中矢印)を注意してご確認ください。

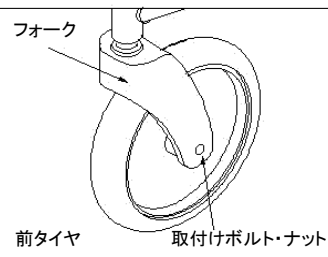
⑧折りたたみバー(取付けボルト・ナット) 左右計6ヶ所



折りたたみバーがスムーズに作動することをご確認ください。折りたたみバーの取付けボルト・ナット、取付けネジにゆるみがないことをご確認ください。

* 定期的にも可動部に注油してください。

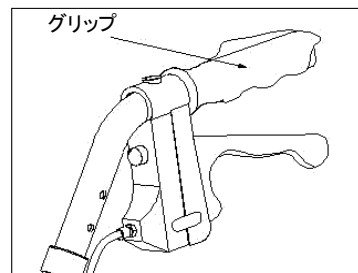
⑨前タイヤ・フォーク(取付けボルト・ナット) 左右2ヶ所



タイヤにすり減りがないこと、滑らかに回転すること、フォークに変形や破損がないこと、取付けボルト・ナットにゆるみがないことをご確認ください。

* 定期的にも車軸部に注油してください。

⑩グリップ 左右2ヶ所



グリップにやぶれのないこと、簡単に回転したり、はずれないことをご確認ください。

【安全に製品をご使用いただくために・・・】

《レンタル事業者様へ》

- 「イーストアイ・セーフティーアーム ロレータSS」をレンタル品としてお取扱いいただきまして、誠にありがとうございます。歩行車をレンタルされる際には、実際にご使用になるお客様に、歩行車の使用条件、使用方法、取扱い上の警告・注意事項など、この取扱説明書の内容について十分説明していただくようお願いいたします。また、実際に使用される場所をご確認いただき、周辺に障害物などの危険(例:家具、敷居、敷物など)がある場合、ご利用者様に対して、「使用環境の整備」と「事故防止の対策」などの提案をお願いいたします。この説明書の内容をご説明いただいた後、必ず下記『アフターサービスのお問合せ先』の各事項を記入の上、商品と一緒にご利用者様へお渡しください。
- ご使用前に専門家(医師、理学療法士、介護福祉士、ケアマネージャーなど)にご相談ください。長期にわたってレンタルされる場合はご使用される方の症状が変わる場合があります。定期的にご利用者様にとってこの用具が正しく、安全に使用することが可能かどうか、製品の状態、使用方法や使用状況などをご確認の上、再度、用具(歩行器、多点杖、歩行車など)の選定の検討や正しい使用方法のご説明をお願いいたします。
- 定期的にご利用者様宅を訪問の際に、歩行車の状態を『お手入れの際のチェックポイント:14～15頁』に基づきご確認いただき、メンテナンスを行ってください。製品は外部から見て損傷がないように見えても、ご使用とともに金属疲労、紫外線などによる樹脂の劣化・退色、ゴムの摩耗や硬化などの経年劣化が進み、強度不足など総合的に製品の安全性に問題となる場合があります。点検後に異常が見られる場合は、即時に使用を中止して製品の回収をしていただき、下記:『製品についてのお問合せ先』までお問合せください。メンテナンス不良のまま製品の使用を続けると製品の破損や転倒など思わぬ事故の原因になります。定期的メンテナンスをお願いいたします。
- 弊社では定期的に取り扱説明書を改訂しております。商品をご購入後、1年以上を経過して再レンタルなどの場合には、ホームページから介護保険貸与対象福祉用具の「取扱説明書」の最新版をダウンロードしてご利用ください。(ホームページURL <http://www.easti.co.jp>)

《ご利用者様、介護される方へ》

- この度は「イーストアイ・セーフティーアーム ロレータSS」をご使用いただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書には、本製品を安全にご使用いただくための警告・注意事項や使用方法、お手入れの際のチェックポイントや点検方法などが記載してあります。レンタル開始時に必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、不明な点がございましたら、貸与を受けられているレンタル事業者までお問合せください。ご使用の間に、製品に破損や変形などの異常がみられる場合は即時に使用を中止して、『アフターサービスのお問合せ先:下記』または発売元までお問合せください。

『アフターサービスのお問合せ先』

製品名(品番)

セーフティーアーム ロレータSS グリーン/レッド (品番:RSAS-G/R)

レンタル開始日 年 月 日

会社名 (住所/電話番号をご記入ください)

*** 商品に異常が見られる場合はすぐに使用を中止し上記レンタル事業者に連絡してください。**

- * 無断転載・複写を禁じます。
- * 説明の都合上、実際の製品に対し、全てのイラストは簡略化しています。
- * 「セーフティーアーム」は株式会社イーストアイの登録商標です。
- * 製品を譲渡される場合は、必ず合わせて本説明書もお渡しください。
- * 廃棄の際には、居住地の自治体の指示に従い処分・廃棄してください。



＜製品についてのお問合せ先＞

株式会社イーストアイ(発売元)

〒123-0864

東京都足立区鹿浜1-4-14

TEL 03(3897)9393 / FAX 03(3897)9535

[rsas_150825_dl]